

令和6年度 研究の概要

B4 グループ

滝ノ水中 刈谷瑛美
日比津中 風間花菜
平田中 銭上昂汰

守山東中 中村優作
長良中 今井貴啓

守山西中 荒木夕賀
神の倉中 岡本拓也

「個別最適な学び」のための工夫

1 研究のねらい

生徒の個々の学習進度や能力、個性に合わせた「個別最適な学び」を充実させていくことで、複雑で予測困難な社会の中、変化を前向きに受け止め、対処する資質・能力を身につけることができると考える。

文部科学省より令和3年3月に出示された「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」には、「今後の教育課程の在り方について、学習指導要領において示された資質・能力の育成を着実に進めることが重要であり、そのためには新たに学校における基盤的なツールとなる ICT も最大限活用しながら、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する『個別最適な学び』の一層の充実が図られることが求められる」と述べられている。

これらのことから、本グループでは、各学校の生徒や実態に合わせて、「個別最適な学び」のための工夫を考えていきたい。

2 研究の内容

(1) 生徒の実態（抽出校第2学年生徒109名）

本年度受け持った生徒は、授業には前向きに取り組んでいる。しかし、小テストにおいて、単項式の次数は答えられるが、多項式が何次式であるかを答えさせる問いには半数以上が誤った解答をしていた。また、2つの単項式の乗法・除法は答えられるが、3つ以上の単項式の乗法・除法や分数が混ざった計算には半数以上が誤った解答をしていた。これらの誤答を分析すると、計算過程でミスをしている生徒もいれば、根本的に計算方法を理解していない生徒もいることが分かった。計算過程でミスをする生徒には、どこでミスをしたのか確認させる声掛けが必要であり、計算方法を理解していない生徒には、計算の順序を確認させる手立てが必要である。

このように、生徒の学習進度や能力、個性は一人ひとり異なるため、「個別最適な学び」の一層の充実を図る必要があると実感した。

(2) よりよい教材や指導法

- ・ コース別問題を提示し、生徒に選択させる。
- ・ ロイロノートで解答を配信し、自分のペースで取り組ませる。
- ・ 自分の進度をロイロノートで共有し、それをもとに教え合いをさせる。 など

【参考文献】

赤本純基（2023）「中学校数学科 無理なく進める 個別最適な学び」明治図書

「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」文部科学省